

Title	編集後記
Sub Title	
Author	平野, 裕之(Hirano, Hiroyuki)
Publisher	慶應義塾大学大学院法務研究科
Publication year	2014
Jtitle	慶應法学 (Keio law journal). No.28 (2014. 2)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	春日偉知郎教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20140228-0494

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

本号は、2004年の創設と共に慶應義塾大学法科大学院（慶應ロー）に就任され、慶應ローと共に歩んできた春日偉知郎教授の退職をお祝いする記念号である。このような立派な記念号が発刊でき、ご寄稿を頂いた先生方にお礼を申し上げる次第である。

慶應義塾大学出版会の岡田智武氏には、献呈式に間に合わせるための綱渡りのような編集作業を無理にお願いした。岡田氏とは、頻繁なやりとりをし、休日でもメールでの連絡にすぐに返信を頂き、岡田氏の編集部としての活躍なしには発刊は間に合わなかったはずである。岡田氏には心から感謝したい。原稿の提出がぎりぎりとなった先生方には、原稿の催促をして気を使わせてだけでなく、校正を初校のみとしかつ早急な校正をお願いし、ラストスパートの時期となった年末年始は校正、編集作業共に、献呈式の期日に間に合わせるためのぎりぎりのスケジュールでの作業をお願いした。論文を書く以上は、ぎりぎりまで研究をし、文献も完べきを期して納得のいく論文を書こうとするあまり、あと少し時間が欲しいと思う学者の良心は痛いほど分かる。時間は作るものであるとかいわれるが、物理的に多忙な先生方にとってはそれにも限度はある。そのような事情を分かっているだけに原稿の催告は心苦しいものであった。

春日教授の慶應での10年は慶應ローの10年でもあった。ロースクールはプレ研修所的な教育機関として構想された。当然、研究よりも教育が重視される。しかし、自分自身、司法試験の勉強をした経験からして、合格したのは「自分が勉強したから」であって、2013年に慶應ローの学生が合格者1位の実績を残したのも「学生が勉強をしたから」である。試験対策的なノウハウは教わるものではない。ローの教員は、教育サービスを提供するだけでなく、自分の学問への真剣さまたたゆまぬ努力と常に一流たろうという意気込みに満ちたオーラを発して学生を感化するという、オーケストラの指揮者にも似た責任を負っている。ある意味、学生は教師を映す鏡である。ローにそのような真摯な一流たろうという雰囲気醸し出すことが教員の責務である。今回、温和な表情の背景で常に学問的オーラを漂わせていた春日教授が退職することは、慶應ローとしては痛手である。将来、春日教授から「慶應法学は最近ぱっとしなくなったね」といわれないよう、残された教員は研究に邁進し、慶應法学を益々充実させ、慶應ローが単なる教育機関に尽きず、深い学問的素養に支えられた教育機関であることを世に示していかなければならない。

（編集委員を代表して 委員長 平野裕之）